



SISIA PRESS

Vol. 71

2012.1

winter

いつも新鮮 SISIA のコンテンツ

<http://www.sisia.or.jp/>



挨拶 会長 小川 修一 …… 2

「復興から日本再生へ」 埼玉県知事 上田 清司 …… 3

平成23年 SISIA10大ニュース …… 4

臨時総会開催 …… 6

彩の国ビジネスアリーナ2012 開催 …… 7

第16回ホームページコンテスト2011
入賞者発表 …… 8

第33回全情連大会 ANIA 京都大会 ……14

平成23年度地域連携事業

地域 IT 利活用支援ネットワークの構築 ……16

IT 経営 中小製造業生き残りの秘策（4）

NPO 法人埼玉 IT コーディネータ ……18

システム技術部会 平成23年度活動報告
（10月～11月） ……20

中小企業人材確保推進事業

労働・社会保険諸法令改正情報…＜主要社会関係諸法令編＞

社会保険労務士 阿部 真弓 ……24

求人部会 熱海研修報告 ……27

第16回 チャリティゴルフコンペを開催 ……27

アジア・オセアニア IT 産業協会（ASOCIO）
ICT Summit 2011参加報告 ……28

私のストレス解消法

株式会社フジミック埼玉 田中 勉 ……30

行事報告 ……31

会員企業動向 ……32

編集後記・編集委員 ……32

新年のご挨拶

～新法人に向けて～



(社)埼玉県情報サービス産業協会
会長 小川 修一

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましてはつつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

こうしたご祝詞を申し上げますと、皆様の中には「何を呑気なことを」とお思いの方もいらっしゃるかもしれません。

ご承知の通り、昨年3月11日東日本大震災が起き、それより引き起こされた福島原子力発電所の崩壊事故により東北3県はもとより関東地方を始め東日本に、経済的にも精神的にも多大なる損害を与えました。国際的にはギリシャの財政危機がユーロ経済圏の財政金融問題に波及し、欧米はもとより日本・東アジアをも巻き込んだ経済危機問題になっております。

このような状況のもと、当協会は会員皆様のご協力により東日本大震災義援金320万円を被災地の皆様にお贈りすることが出来ました。改めましてご協力・ご支援に厚く御礼申し上げます。

また、10月末には臨時総会におきまして会員の皆様のご承認を頂き、懸案でありました「公益法人改革法」に基づく、より公益性の高い「公益社団法人」認定申請を県当局に行いました。

今年も、我々を取り巻く環境はますます厳しさを増し、世界情勢は全く予断を許さない状況でございます。また、日本の国内だけをみても復興問題・原発問題・消費税問題・TPP問題・雇用問題、景気問題、年金問題など、困難な問題が山積みしておりますが、まずはこうして無事に新しい年を迎えることができたことを感謝する気持ちだけは大切にしたいと思っております。

平成23年度も後3ヶ月となりましたが、IT利活用を促進し地域情報高度化・経済振興のため諸事業計画を清々と推進してまいりたいと存じます。

今一度、会員皆様・関係各位に更なるお力添えをお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞ宜しく願い申し上げます。

「復興から日本再生へ」

～埼玉の挑戦～



埼玉県知事 上田 清司

新年明けましておめでとうございます。埼玉県情報サービス産業協会の皆様には、健やかに平成24年の新春をお迎えのこととお喜びを申し上げます。

昨年は東日本大震災という過酷な出来事がありました。新しい年は、一刻も早い被災者の皆様の生活再建と被災地の復興を果たし、そしてその先に新しい日本を築いていく、そんな1年にしたいと思います。

原子力発電所の事故によって、電力エネルギーの3割を原子力に依存している実態が浮き彫りになりました。私たちは、今こそ再生可能エネルギーの活用や未来型省エネ技術の開発と、それらを生かしたまちづくりに取り組む必要があります。本県では、エネルギーの地産地消に市町村単位で取り組むエコタウンプロジェクトを進めていきます。

私は、日本は世界で最も素晴らしく、そして美しい国だと思います。次世代にこの良き日本を引き継ぐには、新しい産業を育てていくこと、誰もが働きやすい社会をつくること、そしてアクティブな健康長寿社会を築くこと、この3点が鍵になると思います。

まず新しい産業を育てることが必要です。グローバル化が進む中で、我が国の産業構造は変革を迫られています。県内企業が持つ高い技術力をグローバルな舞台で生かすイノベーションの支援を徹底的に進めていきます。

また、イノベーションの鍵は人材です。県では10億円の基金を設けグローバル人材の育成に取り組んでいます。この取組を更に充実し、人材育成の面からもイノベーションを支えていきます。

誰もが働きやすい社会のお手本が北欧諸国です。人口規模が埼玉県より小さい国々が1人当たりGDPでは世界上位を占めています。女性の社会進出が進んでおり、女性の高い就業率が家計所得と消費を押し上げ、経済を元気にしています。勤勉さをはじめとした日本の良さに北欧型の女性の社会進出を加え、誰もが働きやすい埼玉づくりを県と経済界、労働界が一体となって進めていきます。

健康長寿社会という点では、国民医療費の約3分の1が生活習慣病によるものだと言われています。その対策を徹底することができれば国民負担を大きく減らすことができます。国全体で徹底することは困難ですが、意欲ある市町村が本気になって取り組めば大きな成果が期待できます。医療費を減らすだけでなく、高齢者が社会にアクティブに参加していく健康長寿社会の枠組みを市町村と一緒につくっていきます。

これらの取組はまさに大きな挑戦です。素晴らしい企業と人材が集まる埼玉ならそれができる。私はそう信じています。

埼玉県情報サービス産業協会の皆様、地方からこの国を変える埼玉の挑戦にぜひ一緒に取り組みましょう。

〈国内外の主なニュース〉

- 1月14日 チュニジアで長期独裁政権が崩壊、エジプト、リビアにも「アラブの春」と呼ばれる動きが広がる
- 2月14日 中国が経済規模で日本を抜き、世界2位となる
- 3月11日 東日本大震災、死者・行方不明者約2万人に。福島第一原発事故による深刻な被害が発生
- 3月18日 東京都墨田区に建設中の東京スカイツリーが「世界一」634mに到達した
- 4月26日 ソニーにサイバー攻撃、1億件以上の個人情報が流出した
- 6月20日 日本のスーパーコンピューターが、計算速度の世界ランキングにおいて7年ぶりに世界一を奪還した
- 7月17日 第6回女子ワールドカップ決勝が行われ、日本代表「なでしこジャパン」が米国を下し初優勝した
- 7月23日 中国高速鉄道で追突事故が起こり40人が死亡した。安全管理の不備とともに、ずさんな対応が批判を浴びた
- 7月31日 埼玉県知事選にて上田清司氏が新人ら2人を大差で破り3選
- 9月2日 野田佳彦氏が首相に就任し、野田内閣が発足した
- 10月5日 米アップル社の共同創業者、スティーブ・ジョブズ会長が死去した
- 10月5日 タイで大雨による洪水が深刻化し工業団地が水没、日系企業大打撃を受けた。洪水による死者は600人を超えた
- 10月26日 ユーロ危機深刻化、ギリシャ救済のためユーロ圏17カ国がギリシャ国債の削減などに合意。その後欧州各国に波及
- 10月31日 円相場が1ドル=75円32銭まで上昇し、戦後最高値を更新した
- 10月31日 世界の人口が70億人を突破した
- 11月8日 オリンパスが巨額損失隠し、隠蔽額は1000億円超
- 11月11日 野田首相が環太平洋経済連携協定（TPP）の交渉に参加する方針を表明した
- 11月20日 プロ野球日本シリーズ、ソフトバンクが8年ぶり日本一
- 12月17日 北朝鮮の金正日総書記が病死した



学校と企業との就職交流会
(上：学校側 下：企業側)

平成23年

SISIA10



第15回 HP コンテスト2010表彰式



農業 IT セミナー「農業と IT 利活用」
成果発表会



新会社法人移行推進委員会設置



第16回埼情協チャリティゴルフ大会

大ニュース



彩の国ビジネスアリーナ2011



第29回通常総会



第30回通常総会 講演会（講師：古本勉氏）



臨時総会「公益社団法人について」

〈SISIA の主なニュース〉

- 1月20日 第15回 HP コンテスト2010表彰式
- 1月26日～27日 彩の国ビジネスアリーナ2011
- 2月18日 第17回ボウリング大会
- 3月2日 経営者協会主催セミナー「クラウド」
- 3月7日 農業 IT セミナー「農業と IT 利活用」
成果発表会
- 3月29日 第29回通常総会
- 4月19日 会計監査
- 4月22日 新会社法人移行推進委員会設置
- 4月28日 人材確保推進委員会
- 5月24日 第30回通常総会
講演会「東日本大震災を踏まえた事業継続について」
- 6月6日 埼玉大学 地域イノベーションセンター総会
- 6月17日 IT 研修「OJT 担当者のための育成スキル研修」
- 7月4日 新会社法人移行推進委員会
- 8月8日 JISA 地域連携事業について
- 8月23日 経産省農業推進事業 フォローアップ会議
- 9月16日 ビジネス交流会
- 10月5日 学校と企業との就職交流会
- 10月12日 第16回埼情協チャリティゴルフ大会
- 10月25日 臨時総会「公益社団法人について」
- 10月26日 認定申請を行う
- 11月10日～12日 ANIA 全国大会
- 11月19日・20日 埼玉県工業高校 HP コンテスト審査会
- 11月26日 総務省関東総合通信局 関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会主催「わがまち CM コンテスト」
- 11月26日～12月2日 アジア・オセアニア ICT サミット2011
インドネシア大会参加
- 12月7日 企業と大学3年生との懇談会



アジア・オセアニア ICT サミット2011
インドネシア大会

臨時総会開催 —新社団法人移行に関する事項について—

平成23年度 臨時総会 社団法人 埼玉県情報サービス産業協会

予てより懸案事項でありました「公益法人」の認可申請を会員にご承認をいただくべく、10月25日ソニックシティの会議室にて午前10時30分臨時総会が開催されました。

正会員89社のうち70社（委任状含む）3分の2以上のご出席により総会が成立し、小川会長が議長となり、増古新法人移行推進委員会委員長より議案提案説明を行いました。

そして、採決となり承認事項を議場に諮ったところ満場一致にて承認され午前11時50分総会は終了いたしました。



<提案理由>

平成18年6月公益法人制度改革関係3法が公布され、平成20年12月新制度への移行法が施行、移行期間は5年間とし平成25年11月30日までに新制度への認定・認可を得なければなりません。（期限までに認定・認可を得なければ強制解散となり資産は国へ帰属となる。）

平成23年4月に新社団法人移行推進委員会を組成し、検討を重ねた結果、公益社団法人に移行する方針が示され、平成23年9月27日開催の第125回理事

会において方針が承認されました。よって、会員皆様のご審議を賜りたく下記により臨時総会を開催いたします。

<議案>

1. 移行申請法人
 - ・公益社団法人（移行後の法人名 公益社団法人 埼玉県情報サービス産業協会）
2. 新定款
 - ・公益社団法人定款（案）
3. 申請時提出規程
 - ・役員報酬規程
 - ・会費規程
4. 移行後の役員（候補）
5. 移行申請に関する権限を小川会長に委任する以上。

そして、この臨時総会の承認を受け、10月26日県当局に「公益法人」認可の申請を行いました。



彩の国ビジネスアリーナ2012 開催

2012年1月25日(水)～26日(木) さいたまスーパーアリーナにて

当協会は(財)埼玉県中小企業振興公社・県内金融機関等との共催により、ものづくり業種だけでなく広い領域での「ビジネスイベント」を埼玉県はもとより、関東近県より多くの企業・団体・大学・企業支援機関の参加をえて開催いたします。

今回は532企業・団体、30の大学・企業支援機関が参加予定です。

皆様のご来場をお待ちしております。

彩の国ビジネスアリーナ2012 実施要領

1 目 的

昨年3月11日の東日本大震災並びに福島原発事故の発生により東北3県はもとより関東地方に経済的・精神的におおきな被害をあたえました。ギリシャ金融財政危機に端を発したユーロ圏の経済の低迷は、欧米のみならず日本の産業全体に大きな影響を及ぼし、とりわけ中小企業を取り巻く経営環境はかつて経験したことのない極めて厳しい状況が続いている。また、中国を始めとするアジア地域が回復を果たす中、日本は持ち直しの動きが遅れている。

このような状況の下、中小企業にとっては、個別あるいは連携しての受注確保や販路開拓等への取組が急務となっている。

彩の国ビジネスアリーナ2012は、中小企業の受注確保・技術力向上、販路開拓等を目的として、広域的な企業間連携を形成し、取引・技術交流の促進、新たなビジネスチャンス創出の場を提供するとともに、埼玉県を中心とした隣接都県の産業の活性化に資するものである。

2 名 称 彩の国ビジネスアリーナ2012

3 実施日時

平成24年1月25日(水)10:00～18:00

26日(木)10:00～17:00

4 実施場所

さいたまスーパーアリーナ

埼玉県さいたま市中央区新都心8番地

5 実施概要

(1) 技術・製品展示会

出展者が自社製品・加工品を展示し、自らの技術力を積極的にアピールするとともに、来場者との商談や出展者間における情報交換・商談等を行う。

(2) 広域商談会

招へい発注企業と出展者が面談形式により、具体的な発注案件に基づいた商談を行う。

(3) 産学官連携フェア

工科大大学及び研究機関の研究テーマ・成果を基に共同開発等に向けた情報交換を行う。

(4) 講演会

企業経営や最新技術動向などに関する講演会を開催する。

6 出展対象

原則として、埼玉県及び隣接都県に本社または事業所を有する企業

7 出展者数 640小間

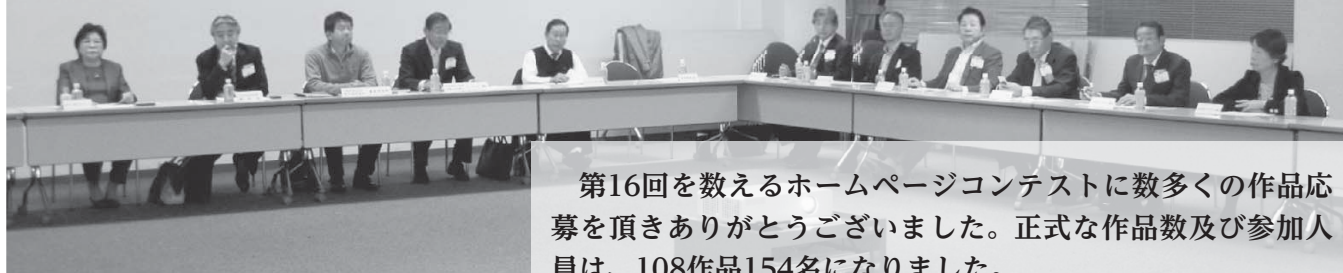
8 来場者数 15,000人(目標)

9 埼情協ビジネスアリーナ2012出展企業一覧(申込み順)

	企 業 名
1	株式会社日東テクノブレーション
2	蓼科情報株式会社
3	株式会社フジコミュニケーション
4	AGS 株式会社
5	株式会社三和システムフォーム
6	株式会社イーシティ埼玉
7	株式会社ソルパック
8	富士通株式会社
9	ミツイワ株式会社
10	関東図書株式会社
11	エレクス株式会社
12	埼玉県 GIS 普及推進研究会 埼玉県測量設計業協同組合
13	株式会社オービックビジネスコンサルタント
14	有限会社エフ・ディ・エス
15	パシフィックシステム株式会社
16	CSS クレセント株式会社
17	サンエイソフトウェアジャパン株式会社
18	有限会社エイ・ケイ・システム
19	株式会社アーベルソフト
20	特定非営利活動法人日本情報技術取引所
21	(社)埼玉県情報サービス産業協会 IT 相談室

第16回ホームページコンテスト2011

入賞者発表



第16回を数えるホームページコンテストに数多くの作品応募を頂きありがとうございました。正式な作品数及び参加人員は、108作品154名になりました。



審査につきましては、10月下旬に協会理事及びホームページコンテスト部会員による Web上での一次審査、続いて、ホームページコンテスト実行委員会メンバーによる二次審査を経て11月17日（木曜日）に最終審査会を実施致しました。最終審査会には、ホームページコンテスト審査委員長（埼玉大学池口教授）を中心に後援団体、協賛企業、協会理事、ホームページコンテスト部会員による厳選なる審査を行いました。

当協会のホームページコンテストは、自由な発想から作られた作品を募集しており、毎回審査員に新鮮な驚き、感動を与えてくれる作品が受賞して参りました。今回のコンテストも審査員のハートを鷲掴みにした作品が多く出品され審査員を大いに悩ませました。そんな素晴らしい作品の中で受賞された方々を次の通り紹介させていただきます。

審査委員長講評 埼玉大学大学院 理工学研究科教授 池口 徹



皆さん、明けましておめでとうございます。埼玉県情報サービス産業協会のホームページコンテスト表彰式のシーズンがやってまいりました。今年も大変多くのおみなさまから、素晴らしい作品を応募していただきました。

例年と比べても、力の入った作品が多くありました。審査会も、第一次審査、第二次審査から最終審査まで、全ての段階で、審査委員全員で、楽しみながら、しかし、悩みながら入賞作品を選びました。

埼玉県情報サービス産業協会のホームページコンテ

ストの特徴は、技術的な完成度ではなく、そのコンテンツについて、作者の皆さんがどのような表現をされているのかが重視されています。

最近、ツイッター、フェイスブックなどの情報発信、情報共有の手段も多様化しています。この意味において、ウェブページをどのように表現するのかを考える必要があるでしょう。見た目を良くするためには、新しい技術の導入や修得も重要ですが、技術はすぐに陳腐化します。しかし、情報発信内容をどのように構成するのかは、いつの時代も変わらず普遍的で、新しい技術が開発され続ける今だからこそ、内容を重視するコンテストがとても重要だと思います。

＊埼玉県知事賞／富士通賞／日刊工業新聞社賞

かんたん！切り絵アート

幸手市立幸手中学校 伊藤 美彩都



を使用したトップページやマウスカーソル、アイコンや背景などにも自分の出せる最大限の力を注ぎました。そして、来年はもっと良いホームページを作ることができるようがんばりたいと思います！

＊さいたま市長賞

Let's カロリー計算

AGS ビジネスコンピューター(株) 藤井 智恵美

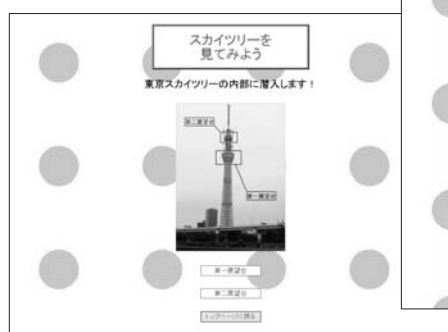


ホームページを作成する際に特に苦労したことは、使用する素材探しでした。文字だけではなく画像があった方が全体の雰囲気も良いと思ったので、背景等には出来るだけ明るいイメージの写真を多く使いました。また、食べ物を題材にした為、ページ上の色合いなども明るく美味しそうに見えるよう考えて選びました。操作性やWebデザインについても考えて作成することが出来たので、とても良い経験になったと思います。

※総務省 関東総合通信局長賞

東京スカイツリーについて2

幸手市立幸手中学校 角田 智子



去年から東京スカイツリーに関する内容のホームページを作ってきました。今年は、それをさらにパワーアップさせようと思い、続編に挑戦しました。

先生から受賞の知らせを聞いた時は、喜びと同時に、取材や撮影のため、夏休みを利用して、何度もスカイツリーを見に行った時のことを思い出しました。猛暑のなか、汗をかきながら写真を撮ったり、お店でインタビューしたりしたことが、今では懐かしい思い出です。その時実際に自分の目で見たり、感じたりしたことによって、スカイツリーがとても身近な存在になりました。来年5月のオープンを今から楽しみにしています。

最後になりましたが、このような素晴らしい賞をいただくことができ、本当にありがとうございました。

※経済産業省 関東経済産業局長賞／高校・大学・専門学校の部 最優秀賞

Green Life

中央情報専門学校 孫 日昌／志村 智春



この度は、第16回彩の国さいたまホームページコンテスト2011において、経済産業省関東経済産業局長賞、並びに高校・大学・専門学校の部最優秀賞を頂き、誠にありがとうございます。今まで学校で勉強してきた技術が役に立ち、大変光栄に思っております。私達が埼玉の野菜をテーマの1つにした理由は、3月11日の東日本大震災以降野菜などの

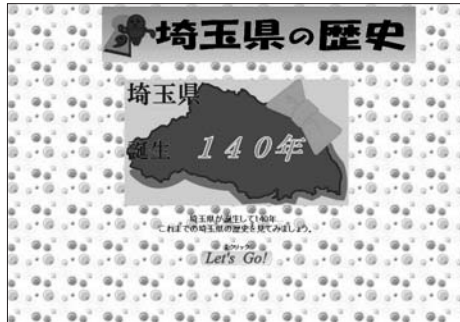
食品の安全性が心配になり、埼玉県で生産されている野菜にはどのような種類があり、その野菜の栄養価や効能についても詳しく知りたいと思ったからです。このホームページを作るにあたり知識のない私達は一から色々な事を学ぶ必要があったため、インターネットや文献などを参考にしてみとめました。そして、その内容に合った画像を集めることに苦労しましたが、その苦労に見合っただけの作品を作ることができ、とても良かったと思います。

最後になりましたが、今回のこのホームページ制作のために、指導や助言を下された学校の諸先生方に感謝したいと思います。ありがとうございました。

＊小・中学生の部 最優秀賞

埼玉県の歴史

幸手市立幸手中学校 佐藤 麻美



私は今回、小・中学生の部最優秀賞を受賞しました。私がこのホームページを作ろうと思ったきっかけは、埼玉県のホームページを見て今年が埼玉県誕生140周年だということを知り、埼玉県の今までの歴史について、みんなに知ってもらいたいと思ったからです。

私がホームページを作るとき、画面の見やすさを心がけて作りました。画像の配置を少しずつ調整したり、文字の大きさを調整したりして、見やすい画面を作りました。また、このようなホームページを作ることができたのは、顧問の柿沼先生をはじめ、部活動の仲間や家族など、多くの方々の助言があったからだと思います。本当にありがとうございました。

私は、また来年もホームページを作りたいと思っています。今回のホームページ作りで学んだことを生かし、もっとレベルアップしたものを作れるよう、頑張りたいです。

＊小・中学生の部 優秀賞／サンケイリビング新聞社賞

ありあわせおにぎり

幸手市立幸手中学校 千田 江里奈



小・中学生の部優秀賞とサンケイリビング新聞社賞の二つの賞をいただき、ありがとうございます。そして、コンテンツの指導をしていただいた柿沼先生もありがとうございました。二度の応募でやっと入賞でき、とても嬉しいです。

最初、私は違う題材でHP作成していました。けれど資料が全然集まらなく、部活の中では遅れていた方でした。そこで柿沼先生に相談したら「おにぎりなんかいいんじゃないか」と言ってくださり、これなら私にもできると思い「ありあわせおにぎり」の作成が始まりました。

時間も少なく、いそいで撮った写真がブレていて叱られたり、応募日ギリギリにポストに出したりと、ドタバタなHP作成でした。この賞をバネに、来年は小・中学生の部最優秀賞をとれるようにがんばります！

＊高校・大学・専門学校の部 優秀賞

見やすいサイトの作り方

埼玉県立越谷総合技術高等学校
高橋 貴恵 (他3名)



「MUD」というものをテーマに、誰でも見やすいサイトとはどういうサイトなのだろうかと興味を持ち、実際に自分たちで調べながら一つの見本となるホームページを作成しようと話し合った結果、このホームページが作成されました。MUDがまだあまり知られていないため情報が少なかったり、色覚障がい者の方の色の見え方が違うなど、様々な苦労もありましたが、こうして優秀賞を頂くことができ、班員一同大変うれしく思っております。誠にありがとうございました。

＊一般の部 最優秀賞

古代埼玉 ～埼玉古墳群～

さいたま市 篠原 頼之



「手に職をつけよう」と2年前に以前から興味があったwebデザイナーの専門学校に通い始めました。何もわからない状態からのスタートでしたが、出勤前の勉強と学校の授業のおかげで、なんとかwebサイトを作れるようになりました。普段の勉強の1つとして、いろいろなサイトを見るようにしています。その際に当コンテストの事を知り、自分の勉強してきたことの腕試しと思い応募しました。

パソコンや端末によっては見ることができないFlashを使用しないで、Ajaxを使って動きを出すようにしました。自分のイメージに合うAjaxを探し変更していくことに時間がかかりましたが、イメージ通りに仕上がり苦労したかがあったと思います。

今回、このような賞を受けることができたことは周囲の励まし協力があったからだと思い、深く感謝いたします。

＊シニアの部 最優秀賞

ネパール風土逍遥

横浜市 伊達 美徳



キーボード 30余年、インターネット 20余年、ホームページ 10余年、コンピュータ 30余年、ハードウェア 20余年、ソフトウェア 10余年、ものものの硬具のあまりにも脆弱なること、軟具言葉のあまりにも難解なることに、右往左往して悩む日々ですが、最近ではもしかしてこれはシニア世代用のボケ防止道具かもしれぬと思いつつあります。

そしてこのコンテストは、来年はもっと上位入賞しよう、だからボケぬようとシニアの励みになり、日本の超高齢社会を活性化する意義ある事業として敬意を表します。

今回の応募入選作のポイントは、次の4点にありました。

- ①全体構成を、比較文化論あるいは社会批評的な視点で文章と画像による表現とした
- ②サイト構成を、何回も奥へクリックする必要がないようにできるだけ簡潔にした
- ③ページ構成を、高齢者にも読みやすいように太い文字と大きな画像で簡潔にした
- ④画像の構成を、同系統はスライドショーとして比較しやすいように表現した

評価していただき、ありがとうございました。

＊協会会員の部 最優秀賞／キンビール賞

Fujicom Farm

(株)フジコミュニケーション ビヤムバドルジ(他2名)



この度は、私共の作品にこのような素晴らしい賞をいただき、大変光栄に思っております。実際に農作業に携ってみることで得られる充足感や達成感など、自分達を感じたことを誰かに伝えられないだろうか。そういった思いからこの作品を作成しました。農作業は慣れないことも多く、皆で四苦八苦しながらの作業となりました。しかし、ホームページを作成するにあたって作業していた時のことを振り返ってみた際、苦労した分普段の生活からは得られないような経験や知識など、得られたものも多かったように感じています。

最後に、ご選出くださいました皆様、作成にご協力いただいた関係者の皆様へ、深く感謝申し上げます。

＊協会会員の部 優秀賞

川越散策

AGS (株)

矢作 瑠璃、西川 真美



この度は、このような賞を頂きまして心から嬉しく思います。私達は埼玉をもっと多くの人に知ってもらいたいと思い、幅広い年齢層の方が訪れる川越をテーマにしました。ホームページ作成にあたり、自分達の足で資料を探しに行ったので、川越の魅力を再確認できるとも良い機会になりました。ホームページにはまとめきることのできなかった内容も多かったのですが、見てくださった方に少しでも川越の魅力が伝わって足を運んでいただけたら良いと思います。ありがとうございました。

＊FM NACK 5 賞／埼玉新聞社賞

山猫一家が行く！バイキング制覇

幸手市立幸手中学校 山根 春香



この度は“FM NACK 5 賞”“埼玉新聞社賞”に選んでいただき、ありがとうございます。私がこの作品を作るにあたってまず大変だったのが、“テーマ決め”でした。え？そんな事が？と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、実はこのホームページ、最初は違うテーマだったんです。

というのも、私は当初“釣り講座 Part 2”を作成するつもりで作業を進めていたのですが、夏季の天候不順で泣く泣くお蔵入りとなり…それからはテーマ探し、取材、ページレイアウト、アイコン作成などの作業に追われ、ふと気がつけば夜中の3時なんてことも度々ありました。それでも、そのギリギリの状況の中で最後までやりきれたのは、顧問の先生をはじめ、部のみんなの支えがあったからです。次回は、今回の喜びと悔しさをバネに、また大賞目指して努力しようと思います！

＊大宮アルディージャ賞

地震について

埼玉県立浦和工業高等学校

松田 弘樹 (他4名)



この度は、私たちのチームが制作したホームページが、特別賞「大宮アルディージャ賞」にお選び頂きありがとうございます。大変嬉しく思います。

私たちは、東日本大震災を踏まえて、みなさんに地震や津波などについての原理や対策を知ってもらおうと、今回「地震について」をテーマにこのホームページを制作しました。

制作するにあたり、観る人に分かりやすくするためにはどうすれば良いか、試行錯誤を繰り返しました。チーム一人一人がアイデアを出し合い、ホームページにCSSやFlashを使うことにしました。

様々な言語を使ったホームページ制作になり苦労

も多かったのですが、チーム5人で協力して完成させることができました。

今回の受賞をきっかけに、これからもホームページ制作に挑戦していきたいと思います。ありがとうございました。

第33回全情連大会

ANIA京都大会

ビジネス部会 副部会長 矢吹 武重



社団法人京都府情報産業協会 長谷川会長

京都の紅葉にはすこし早い平成23年11月10日に京都駅隣接のホテルグランビア京都において「第33回全情連大会 ANIA 京都大会」が開催されました。今回の大会は「京都府情報産業協会 設立10周年記念式典」という華々しい催しとともに盛大に開催されました。「古くからの縁(えにし)があって今がある。そして、今の縁(えにし)が明日を創る。明るく元気な明日の日本に向けて」というテーマの下、全国より320人という情報サービス産業の縁(えにし)で結ばれた参加者で会場は満員の状況でした。埼玉県情報サービス産業協会からは小川会長をはじめ総勢18名が参加いたしました。

開会に先立ち東日本大震災及び台風12号の被害者の方々のご冥福を祈るとともに、本年10月にご逝去された故・黒坂 ANIA 副会長（長野県情報サービス振興協会前会長）のご冥福を参加者全員で祈り、京都府情報産業協会の長谷川亘会長、ANIA 中村真規会長のご挨拶により開会となりました。

ご来賓のご挨拶・ご祝辞を頂戴したのち、「京都府情報産業協会 設立10周年記念式典」及び「全国地域情報産業団体連合会表彰式」が華々しく行われ後、いったん休憩にはいりました。

休憩の間では会場別室にて「琴の演奏」を楽しみ

ながらの「呈茶席」をご用意いただき、参加者はお抹茶とお菓子でくつろいでいました。さすが京都のおもてなしだと感じました。

講演は二部構成となっており、まずは田原総一郎氏による基調講演「時代を読む」と題して講演をいただきました。ちょうど TPP への参加協議が大きなニュースとなっており、続いてご講演いただいた



ジャーナリスト
田原 総一郎氏



(株)アシスト代表取締役
ビル・トッテン氏



左より 長谷川会長、富田屋代表取締役社長 田中峰子氏、ビル・トッテン氏

ビル・トッテン氏の「これが日本の歩む道」でも同じ話題をお話しされていました。田原様は TPP 参加「賛成」、ビル・トッテン氏は「反対」と両論を一度に聴くことができて大変勉強になりました。

パネルディスカッションでは「これからの日本を考え京都の暮らしの知恵に学ぶ」というテーマで長谷川京情協会長をコーディネーターとして、国の登録有形文化財の指定を受けている「富田屋(とんだや)」の13代目田中峰子社長とビル・トッテン氏により行われました。富田屋様は「西陣暮らしの美術館」を運営され京都の「町家(まちや)の暮らし」を紹介し京都の文化、日本人の心を伝え守る活動をされています。(http://www.tondaya.co.jp/)

京都だけでなく日本の古くからある暮らしからの知恵やしきたりなど、これからの日本の形を考えていくための重要なヒントが多数ありました。ひな祭りや端午の節句や七夕などの、昔から家庭内にあったさまざまな行事などの大切さについてお話いただきました。

子供が大きくなってしまったこともあり、我が家ではもうやらなくなってしまいました。ある意味日本人の心をなくしてしまったともいえるかもしれません。「日本人の心を伝えていく」ということは、

これからの日本にとって大変重要なことであると感じました。

会議が終了した後は懇親会で「縁(えにし)」を深めます。芸子さん、舞妓さんの素敵な踊りよりはじまりました。アルコールが入るにしたがい皆さんの笑顔が広がります。

とつぜん肩をたたかれ、振り向くと長崎から参加された方でした。その方は某大手企業の長崎支店長ですが、関東にいらっしゃるときに大変お世話になった方でした。まさに「縁(えにし)」を感じる出来事であったと思います。

ステージではバンドによるジャズがはじまり、音楽に合わせて手拍子や踊りながらまさにスイングする方々もいてさらに盛り上がります。最後はステージに各団体のみなさんも大勢あがって歌い踊り大きな拍手のなか終了いたしました。

本大会を通じて、これからの日本、これからの文化、そしてビジネスを考えていく大変よい会議に参加させていただいたことに感謝申し上げます。来年度は宮崎県で開催されるとのことです。



地域 IT 利活用支援ネットワークの構築

ビジネス部会

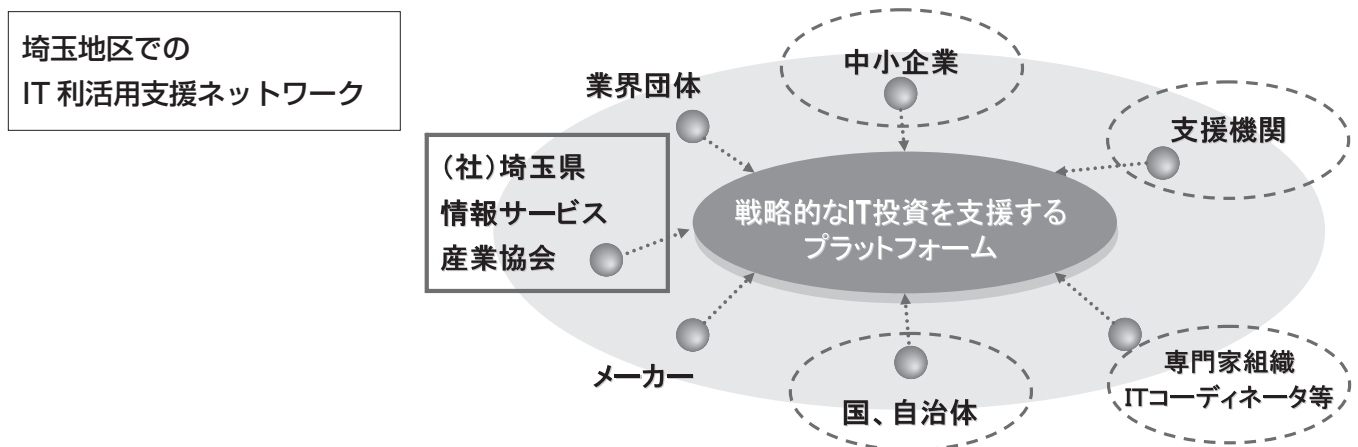
私たちを取り巻く経済環境は、超円高、東日本大震災などにより厳しいものがあります。この状況を打破し、地域経済の復興のためには、IT 利活用による経営合理化がより強く求められています。

このため、本協会は地域 IT 企業の団体として、地域経済の振興・企業連携化のため、経営革新—地域 IT 利活用支援ネットワークを立上げる事となりました。

経営革新に取り組む企業の IT 利活用には、IT ベンダーの力強いサポートが不可欠です。本協会は埼玉地区での IT 利活用支援のネットワークの中心となり、地域活性化への貢献を目指します。

行政・商工団体・金融機関等の推進する、地域活性化活動と連携する地域団体としての役割を明確にし、3年間のアクションプランを推進、自立・継続的な IT 利活用支援スキームを構築します。また、この活動を通して、会員企業は地域ベンダーとしてのビジネス領域拡大を模索するチャンスにもなります。

本事業は情報系企業の全国組織である、一般社団法人情報サービス産業協会の平成23年度地域連携事業の一環としてご支援をいただいております。



本事業は「IT 利活用による地域活性化」を共通テーマに、出来るだけ多くの地域団体・行政機関と連携を深め、「継続的な IT 利活用支援スキーム」を構築するためのアクションプランとして、以下の企画を進めます。

- ①仮称「経営革新—IT 利活用支援ネットワーク会議」の立上げと運営。
- ②ビジネスアリーナを「IT 利活用の地産地消促進メッセージ発信」の場にするための諸企画の実施。
- ③具体的な IT 利活用地産地消ビジネスマッチングの実現のための企画の実施。

本協会としての地域 IT 利活用支援活動としては、これ迄 IT 経営応援隊事業などへの取組み実績がありますが、それらの経験の中で、以下の課題が見えてきています。

●「気づき・啓発」活動から実践支援へのシフトが必要。

地域中堅中小企業に対する、IT 経営実現支援の実績が見える化し、より多くの経営者の関心を高める必要があります。そして実績づくりには、地産地消スキームによる地域 IT ベンダーの活躍が不可欠です。

●支援ネットワークの継続的活動のための情報共有

支援機関と緊密なコミュニケーションを維持し、クラウド時代の IT 利活用のあり方の共有が大切です。

3年計画のホップステップジャンプのアクションプラン

平成23年度	IT 経営支援ネットワークの存在認知活動	
	地域への情報発信	ビジネスアリーナの活用
	支援機関情報交流の活性化	経営革新—IT 利活用支援ネットワーク会議立上げ
平成24年度	具体的支援活動の実践	
	地域への情報発信	ビジネスアリーナの活用
	支援機関情報交流の活性化	経営革新—IT 利活用支援ネットワーク会議運営
	支援機関サービスメニュー確立	常設相談窓口、ベンダー連携機能を創る
	ベンダーからのアプローチ	ユーザー・ベンダー交流 WG、ソリューションセミナー開催等
平成25年度	事例創出と支援スキームの定着	
	地域への情報発信	ビジネスアリーナの活用
	支援機関情報交流の活性化	経営革新—IT 利活用支援ネットワーク会議運営
	事例創出	埼玉版の成功事例表彰制度を創る
	地域での事例の共有	事例セミナー・各支援機関からの広報を実施する

本年度は、本協会をビジネスアリーナでよりアピールする企画を進めるとともに、主な支援機関に呼びかけ「経営革新—IT 利活用支援ネットワーク会議」を立上げ、今後の活動について忌憚のない意見交換と、来年度以降の活動計画を立てて行く予定です。

また、厳しい経営環境のなかで、IT 活用による企業力強化を真剣に考えていきます。

ホームページでの販路開拓

携帯・スマートフォン活用での社外活動管理

海外拠点とのテレビ会議活用

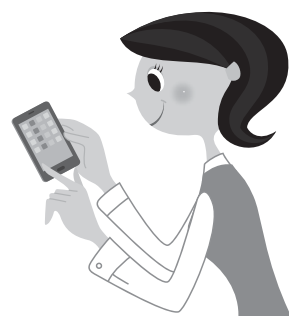
既存情報システム経費削減

等々

クラウド、スマートフォン等、情報は大変豊富です。ただ大手ベンダーは「価格が高い」と敬遠しています。地域 IT ベンダーが信頼できるパートナーになれば心強い存在です。

クラウドの進化がユーザーの IT 利活用のあり方を大きく変えていきます。同じく、私達ベンダー自身も模索とチャレンジの時代です。地域 IT ベンダーが信頼できるパートナーになれば心強い存在となります。

これを機会に地域ベンダーとしての事業領域拡大について取り組んでまいりますので、会員企業の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。



それでも、どっこい生きている 中小製造業生き残りの秘策

バリュー・リデザインング（４）

核融合型アイデア発想法



IT コーディネーター 渡 邊 恵

三芳町在住のITコーディネーター渡邊恵です。中小企業生き残りの秘策として知られるバリュー・リデザインング(VRD)を紹介してゆきます。早いもので4回シリーズも最終回となりました。全体の締めくくりとして、新商品開発のための「核融合型アイデア発想法」についてお話させていただきます。

1. アイデアは既存の要素の新しい組み合わせ

世の中には次から次へと新しいアイデアを思いつく人がいます。そんな発想豊かな人の頭の中で行われているアイデア創出のメカニズムを定式化したのが「核融合型アイデア発想法」です。

アイデア発想法の権威として知られるジェームズ・W・ヤングは、著書「アイデアの作り方」の中で、『アイデアとは既存の要素の新しい組み合わせ以外の何ものでもない』と看破しています。発想力の豊かな人を見ていて感ずるのは、第一に組み合わせられる「要素」を非常に沢山持っておられること、第2にそれらの要素間に関係性を見つける構想力があることです。

ではどうすれば、誰でもが発想豊氏の様に次々とアイデアを生み出せるようになるのか？ こんな課題に応えるために生み出されたのが、「核融合型アイデア発想法」です。まず、要素Aと要素Bを掛け合わせ、Cという初期のアイデアを作る。そのアイデアを修正して、より実現可能なアイデアDに発展させることで誰でも取り組めるようにしています。

第一段階（強制連関）：要素A×要素B→ 初期アイデアC



第二段階（修正発展）： 実現可能なアイデアD

第一段階のコツは、自由な発想で思いつきを数多く出すこと。アイデアの質は問わない。「こんなこと非現実的だな」というような制約を解き放そう。例えば、「宇宙人のパワーを借りて〇〇」とかのトンデモ発想でもかまわない。むしろ非常識とも思えるトンデモ発想の中に誰も気づかなかった斬新なアイデアの核が隠されている場合が多い。とにかく、実現可能か不可能かの予見を入れずに、数多くの初期アイデアを書き出すのがこの段階です。

第二段階では、こうして出された初期アイデアを、より現実的なアイデアに仕上げてゆきます。その際のコツは、列挙された初期アイデアを文字面で判断せずに、その字間に隠された真意を読み解くことにあります。そんな非現実的と決めつける前に、どうすればより現実的なアイデアに変換できるかを考えるのがこの段階です。

2. 第一段階 強制連関基盤により初期アイデアを創出

アイデア発想・強制連関基盤は図-1に示すような内部資源軸と外部環境軸の2軸からなる表です。要素と要素を強制的に関連づけることでアイデアを創出させます。

第一段階（強制連関）：要素A×要素B→初期アイデアC

ここでやることは、ひたすら基盤の目を埋めること。質は問わない。実現性も問わない。

A1とB1を組み合わせたマス目に何が考えられるのか？ 次にA1とB2というように埋めてゆく。し

ばらく考えて思いつかなかったら次の組み合わせを考えるというように、表全体を埋める努力をする。この段階でやることは、できるだけ多くの初期アイデアを書き出すこと。5×5の基盤であれば25個の初期アイデア、10×10の基盤であれば100個となる。少なくとも10個とか20個は欲しいところだ。

（内部資源軸と外部環境軸の選び方）

内部資源軸は、自社の強みを列挙する。この見つけ方は、シリーズの2回目の「資源要素発掘法」で解説しているの

で読み直して欲しい。（図-2に再掲）

外部環境軸は、使命発見法（第3回）で解説した、「我が社の使命」に沿う様に設定します。自社ではコントロールできないけれど、事業に大きな影響を及ぼす要因が外部環境軸となります。想定するお客様のニーズや経営環境の変化、技術の進化などアイデアを出さねばならない状況に応じて選定するとよいでしょう。

アイデア 発想基盤		外部環境軸				
		B1	B2	B3	B4	B5
内部資源軸	A1					
	A2					
	A3					
	A4					
	A5					

図-1 アイデア発想・強制連関基盤

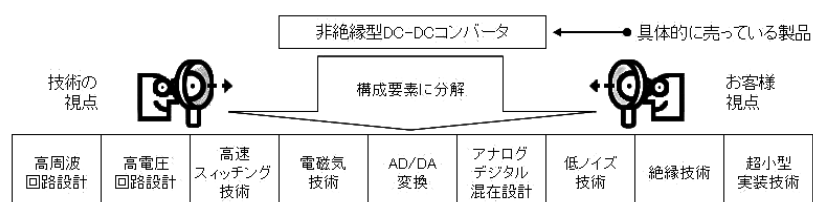


図-2 資源要素発掘法で見つけた強み（連載二回目より再掲）

3. 第二段階 初期アイデアを真のアイデアへの修正発展

図-1のアイデア発想・強制連関基盤を一通り埋めたら、各マス目とマス目を対比させてみよう。相互創発的な新たなアイデアは生まれまいだろうか？ トンデモ発想を実現可能な表現に置き換えられないだろうかなどの修正と発展を行います。一見非現実的と感ぜられるトンデモ発想にもブレークスルーする核が隠れていることがある。表現の言葉尻ではなく、その背後に隠れた意図を斟酌して、何とか実現可能なアイデアに変換する。

第二段階（修正発展）：初期アイデアC→実現可能なアイデアD

この様に、アイデア発想・強制連関基盤に記述された初期アイデアを、修正発展しながら使命発見法（第3回）で解説した、「我が社の使命」を評価基準に沿ってアイデアをリストアップする。修正発展だけでなく、相互創発的に生まれる新たなアイデアも追加してゆく。

アイデア活用の要は、必ず複数のアイデアを考え抜くこと。沢山のアイデアの中にキラリと光るものを見つけること。たまたま閃いた一つか二つのアイデアに頼らないこと。その上で複数のアイデアの中から、予算や期限など制約条件を加味して採用するアイデアを選定する。核融合型アイデア発想法をご活用いただき、すばらしいアイデアを創出していただきたい。そうした想いを込めて、バリュー・リデザインングの4回シリーズを終了させていただきます。

次年度も NPO 埼玉 IT コーディネーターでは、皆様のお役に立てる記事を提供してゆきます。ご期待ください。

（参考文献）ジェームズ・W・ヤング、「アイデアの作り方」、阪急コミュニケーションズ（1998）

本記事に関するお問合せ、および、ご相談の連絡先 **特定非営利活動法人 埼玉 IT コーディネータ**
住所：〒336-0021 さいたま市南区別所 7-2-1-411 TEL：048-710-5437 FAX：048-710-5438
URL：http://www.saitama-itc.org/ E-mail：info@saitama-itc.org

はじめに

当部会では、3年前よりネットワークビジネスに着目し「クラウドの研究・実装」「スマートフォンのビジネス利用」について研鑽・研究を行い、今年度は「ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）のビジネス利用」について研究を行っています。

部会メンバーも Facebook にアカウントを登録し部会の連絡ツールとして利用していますが、Facebook にどっぷりつかるとメンバーや情報の使われ方に不安がっているメンバーなど色々な反応が出ています。さらに検証しビジネスの場で利用可能か研究・研鑽していきます。

余談ですが、9月部会開催日が台風直撃に当たり中止となりました。この時も Facebook を利用し

スムーズに中止連絡がメンバーに伝わりました。

当部会はプロジェクト・リーダークラス以上のメンバーが中心となり活動しています。会社の中では最も多忙な方ばかりですが、どんなに忙しくとも月半日だけは参加して、活動内容を次のステージへとステップアップするために他社で同じ様な環境で頑張っている人達と熱いディスカッションをしたい、それを出来る場所が SISIA にある…それを実現するのが我々の夢です。

SISIA の会員企業の社員で、当部会のテーマに関心がある方、我々と熱いディスカッションをしたい方は SISIA 事務局迄ご連絡ください。ご参加をお待ちしています。

開催日時：2011年10月20日(木) 16:00～17:15

場 所：株式会社ソルパック

参 加 者：鬼澤喜一、後藤拓、斎藤俊博、加藤健治、深野良幸、大岡洋平、小林裕一郎(順不同、敬称略)

1. 内容

●『SNS のビジネス活用』

(発表者：ボルボ IT ジャパン 斎藤俊博氏)

(1) SNS (Social Network Service) とは？

(2) SNS が提供する主な機能

- マイページ機能、メッセージ送受信機能、日記帳（ブログ）機能、掲示板機能、ユーザ検索機能、その他（アドレス帳、カレンダー、アルバム）

—グループウェアとして使用できる機能がそろっている

(3) 主な SNS サイト

<世界の SNS>

- Facebook
 - 世界最大、ユーザ数約 7 億5000万人
- MySpace
 - 音楽中心、ユーザ数約 2 億人
- Orkut
 - ブラジル・インド人が大半を占める、ユーザ数約 1 億人
- Cyworld
 - 韓国版 SNS、ユーザ数約2000万人

<日本の SNS>

- mixi
 - ユーザ数約2000万人
- GREE
 - ユーザ数約2700万人
 - ※日本の SNS はゲーム色が強くビジネス向けではない

(4) Facebook とは？

- アメリカ発祥、日本版あり、実名登録、13歳以上
 - なぜ13歳からなのか？
 - 日本では実名登録が敬遠されると思っていたが、増えてきている

(5) Facebook の魅力

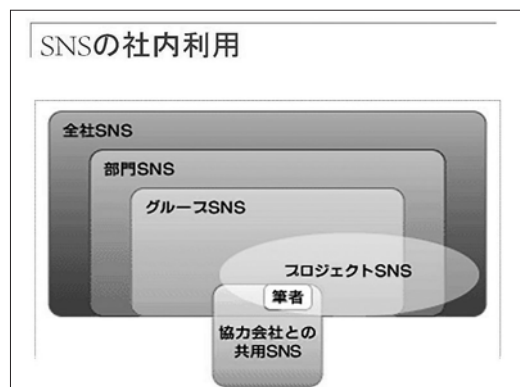
- 友人とのより深い交流
 - アメリカでは Facebook をつまらないと言う人は人間関係が希薄だといわれる

(6) SNS のビジネスへの利用

- 企業のマーケティング活動
 - Facebook ではファンページの活用
- ソーシャルラーニング（eラーニングとの比較）
 - eラーニングは自分の時間で学習が行える（時間の制約がない）

SNS を利用したソーシャルラーニングであれば時間制約がないだけでなく、指導者と QA を行ったり利用者同士でコミュニケーションが図れる

- グループウェアとしての社内導入
- 内定者の囲い込み



(7) SNS の社内利用

- 全社
- 部門、グループ、プロジェクト単位
- 外部パートナー企業

(8) 社内利用のためのルール

- セキュリティ対策
- プライバシー対策／機密保護
 - 誹謗中傷が発生しないようにする
- 生産性への配慮
 - 教育や監視により仕事以外の利用を制限させる

(9) まとめ

- SNS は企業 HP と同レベルの企業の顔となりえる
- 社内利用ではグループウェアを導入済みの会社では不必要

開催日時：2011年11月19日(土) 8:40～11:30

場 所：民宿 今宵荘

参 加 者：鬼澤喜一、徳澄範光、後藤拓、加藤健治、深野良幸、小林裕一郎（順不同、敬称略）

1. 内容

◎統一テーマ『SNS のビジネス活用』

SNS のビジネス活用について各自20分程度発表し討論する。

『SNS のビジネス活用

～Facebook を使ってみて～

（発表者：パシフィックシステム(株) 加藤健治氏）

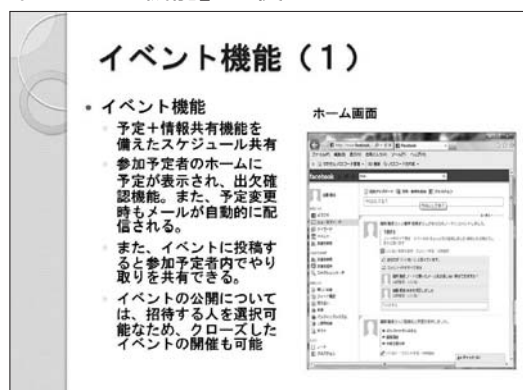
(1) Facebook を使ってみて

- 情報流出を怖がって使用を控えていたが、今年度の部会テーマということで使ってみた
- 公開範囲が設定可能であり、情報共有ツールとして有用である

(2) Facebook 機能の活用

- 検証した機能
 - ⇒ 友達共有機能、イベント機能、ノート機能

(3) 「イベント機能」を使ってみて



- スマートフォン等を使って社外にいる人ともタイムリーにイベントへの出欠確認、事前質疑等が参加者全員で共有できる
- イベントの変更についても自動的にメールが送信され、変更・出欠確認等が非常に便利

(4) 「ノート機能」を使ってみて

- ノートに対するメッセージも表示される
- コメントが入るとメールが関係者に送信される
ただし、本文のみの修正ではメールは発信されない

.....

『SNS のリスク』

（発表者：AGS (株) 小林裕一郎氏）

(1) リスク管理のノウハウが SNS の企業利用を左右する

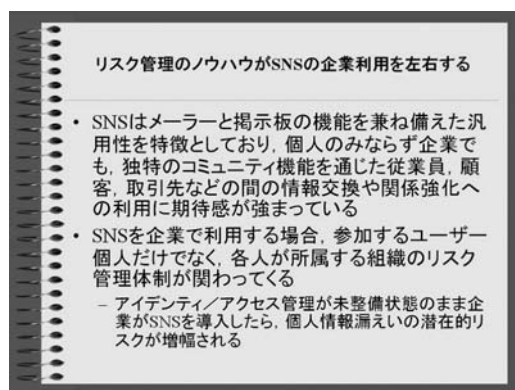
- SNS の企業利用に期待が高まっているが、組織としてリスク管理体制が必須

(2) SNS におけるリスクとは？

- マルウェア
- データ漏えい
- ネットワークへの影響
- 生産性の悪化

(3) ビジネスを守るための新たな要件

- リアルタイムの Web 技術
- SNS の管理を取捨選択する
- キャッシュを活用する
- 利用方針を柔軟に



『ソーシャルメディア』

(発表者：(有)エイケイシステム 深野良幸氏)

(1) Social Networking Service

- 人同士のつながりを Web 上で実現する仕組み
- コミュニティ型の会員制 Web サービス
⇒ TV・新聞にて信頼性が上がりトラフィックが増となってきた

(2) つながり

- 趣味や趣向、居住地区、出身校、友人の友人

(3) ソーシャルメディア

- 情報流通のソーシャルメディア(Twitter など)
⇒ 情報提供者(キュレータ)の存在
⇒ 情報提供者により情報の価値、真偽、量が異なってくる
- つながりのソーシャルメディア(Facebook など)
⇒ オープンコミュニティ
⇒ クローズドコミュニティ

(4) クローズドコミュニティ

- メールと SNS の比較
⇒ SNS の方がコミュニケーション量 3 倍
⇒ SNS の方がコミュニケーションスピード 40 % 短縮
- 社内 SNS 利用のメリット
⇒ 情報共有による業務の効率化、人材育成、相互理解
- 社内 SNS 利用のデメリット



⇒ 遊びのツールに見える、関与時間、運用規則違反者の扱い

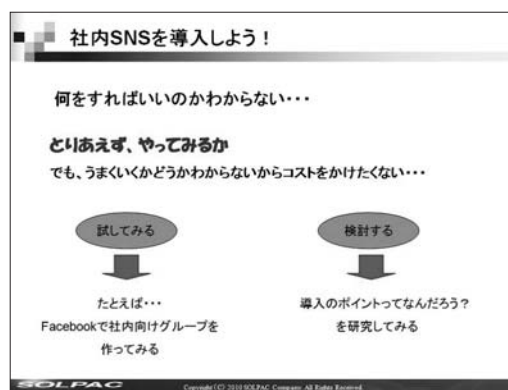
(5) ソーシャルメディアのビジネス活用

- 電話から電子メールへ、そして今、電子メールから SNS へ

⇒ コミュニケーションツールの主役交代

『企業内 SNS の導入ポイント』

(発表者：(株)ソルパック 後藤拓氏)



(1) 社内 SNS を導入しよう！

- とりあえず、やってみるか
⇒ 試してみる、検討する

(2) 社内 SNS を導入したい理由って？

- 社外や遠隔地拠点で働く社員がいる
- チームメンバー変更、チーム・組織を越えた交流
- 時間的制約をどうにかしたい

(3) 社内 SNS がうまくいかない理由～解決すれば成功のポイント～

- SNS の説明が不十分、導入意図・使用ガイドラインが不明確
⇒ 導入前に社員への説明(要討議)を十分に、導入目的・すべきこと・してはいけないことを明確に
- ツールが使いにくい
⇒ 十分な検討(テスト、試用)
- 使用しない人へのフォローがない
⇒ ファシリテータの配置・育成
- 情報共有の範囲が不明確
⇒ 使用者の範囲・権限を明確に

(4) 社内 SNS の成功事例

- 手嶋屋 ● NTT データ

(5) まとめ

- 部会メンバーの企業では？
⇒ コミュニケーションは良い方
⇒ SNS を使い始めている企業あり

『SNS』

(発表者：ブレン・アシスト(株) 徳澄範光氏)

(1) SNS との関わり

- Twitter は 1 年強、Facebook は 1 年弱使っている
- Twitter は情報を取ったり、出したりしている
- Facebook は使わせようと働きかけてくる

(2) SNS の状況

- 震災では電話がほとんど使えなかったが、インターネットは切れずに使えた
- 電話の次の連絡手段として SNS が使われてくる
- 20代から30代は Facebook を使っていない
⇒GREE やモバゲーなどのゲーム系 SNS を使っている

(3) SNS のビジネス利用

- BtoC はすでに始まっている (コカコーラ、ユニクロなど)
- BtoB でどのように使うか、使えるか
⇒楽しみながら考えていきたい

『SNS/Facebook 研究』

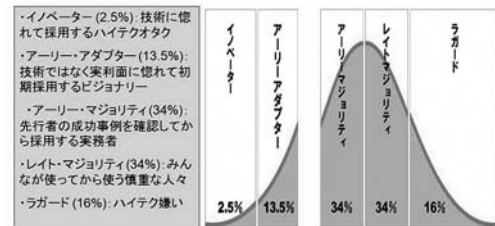
(発表者：(株)ソルパック 鬼澤喜一氏)

(1) 国内三大 SNS 比較

- 会員数は GREE、モバゲーが伸びており、mixi

テクノロジー・ライフサイクルにおける

Geffery Mooreいわく、ハイテク製品技術においては、新技術が市場に浸透する際には5パターンの採用タイプの間にクラック(断絶)があり、その中でも特にアーリーアダプターとアーリーマジョリティの間(16%のライン)には「深く大きな溝」があるとし、これをキャズム(Chasm)と呼んだ。



は停滞している

- 売上げはモバゲーが群を抜いている

(2) テクノロジー・ライフサイクル

- 新技術が市場に浸透する際、5パターンの採用タイプがある
- ハイテク好きや実利面に惚れて初期採用する先進グループと成功事例を確認してから採用する実務・慎重グループの間にはキャズムという「深く大きな溝」がある

(3) 簡単にキャズムを越えた Facebook

- 「実名制」のハードルが高いのは日本だけではない
- しかし、「実名制」だから可能となる「人物探索機能」「メッセージング機能」にポイントがある
- Facebook はあらゆる機器に搭載されソーシャルレイヤを独占していく

システム技術部会合宿 ミニ報告

平成23年11月18日(金)・19日(土) 1泊2日 6名

開催地：埼玉県秩父市(旧吉田町) 民宿 今宵荘

本年度のテーマ：SNS のビジネス活用

今年度の合宿は2年ぶりに秩父市での開催となった。初日は懇親の催しとして酒造工場見学やダム見学、芝刈り(!?)を満喫した。

今回、秩父駅から車で30分ほど山奥に入った旧吉田町にある民宿「今宵荘」が宿兼討議会場となった。宿の主は毎年旧吉田町で開催している龍勢まつりに「龍勢」と呼ばれる手作りロケットを奉納している地元でも名の通った気の良いオヤジである。また、この主人は宿屋以外に別の顔も持っている。それは、長年「玉虫」の研究・養殖を行っている事である(玉虫の養殖は全国でもここだけではないかと主人本人は言っている)。我々も装飾用に加工する前の乾燥した玉虫を見せてもらったが大変美しい光沢を放ち、まさに宝石を見ているかのようであった。宿の近くに吉田元気村という宿泊施設にこの玉虫を



▲吉田元気村の八角堂

使った八角堂が展示しており、こちらも細かな細工がされた大変きれいな出来栄であった。

その日の夕食は食べ切れないほどの食事と、宿の主人に勧められたカラオケ(勧めた主人もののりで歌っていた)を行い、さらに部屋へ戻っての2次会まで流れ込み、夜更けまで大いに盛り上がった。



▲コタツの討議風景



▲宿の前にて

2日目の討議会場は宿泊した部屋で行った。民宿なので畳の部屋にコタツを並べロールカーテンにプロジェクタを投影しての討議会であった。畳にコタツという事もあり、いつもよりリラックスした雰囲気の中、活発な討論が行えたと感じる。討議の後は吉田元気村の八角堂を見学しそこで解散となった。

今年度も事務局の方々のご協力と参加メンバの熱い議論、玉虫・龍勢を熱く語ってくれた宿の主人のおかげにより充実したよい合宿となった。

労働・社会保険諸法令改正情報

今月号は最近行われた社会保険諸法令の法律改正について、まとめてみました。
ご参考にしていただければ幸いです。

…〈主要社会関係諸法令編〉

阿部社会保険労務士事務所 社会保険労務士 阿部 真弓
年金アドバイザー 木内 まり子

1

70歳から74歳の一部負担金見直しが凍結（平成23年度）

70歳～74歳の方（現役並み所得者、後期高齢者医療対象者を除く）の一部負担金を平成20年度から2割負担とする見直しについて、平成20年度～22年度は一割のまま据え置く凍結措置がとられていましたが、平成23年度（平成23年4月1日～平成24年3月31日）も凍結措置継続となりました。

凍結措置継続に伴い、70歳～74歳の高額療養費の自己負担限度額等を据え置く経過措置も継続となります。

義務教育就学後 69歳迄	70歳～74歳	75歳以上 （後期高齢者医療の対象者）
3割負担	現役並み所得者 3割負担	現役並み所得者 3割負担
	一般・低所得者 1割負担	一般・低所得者 1割負担

↑
凍結期間後は2割

POINT

「現役並み所得者」とは標準報酬月額が28万以上の方をさします。

一部負担金の割合が「3割」と判定された方であっても、下記の条件①②どちらにもあてはまる場合は申請により「1割負担」になります!!

①70歳以上の健康保険の被扶養者がおられる場合または後期高齢医療制度の被保険者になったことにより、被扶養者でなくなった方がおられる場合

②前年の収入額が一定基準に満たない場合
詳しくは 全国健康保険協会 HPにて
<http://www.kyoukaikenpo.or.jp/8,6414,39.html>

2

出産育児一時金 42万円据置（平成23年4月～）

出産育児一時金は42万円に据置

平成21年10月から平成23年3月までの間に出産した場合は39万（産科医療補償制度加算対象出産はプラス3万）とされていましたが、平成23年4月以降についても据置となりました。

「受け取り代理制度」創設

被保険者が医療機関等を受け取り代理人として出産育児一時金を事前申請し（出産予定日2か月前から可能）医療機関等が出産育児一時金を受け取る事ができるようになりました。

（従来は、医療機関が、申請手続きを行わなければなりません）

POINT

従来からの「直接支払制度」は医療機関側からすると入金までの2ヶ月間は出産費用を立て替える形になるため資金繰りへの影響や、事務負担増加など医療機関側の理由により導入が進んでいないという問題点が指摘されていました。

「受け取り代理制度」は、医療機関が出産育児一時金を受け取る点では「直接支払制度」と同じですが、被保険者が直接保険者に行えることで、医療機関の申請の事務手続きが軽減されたり、支払期間が短縮される点で、「直接支払制度」と異なり医療機関側にはメリットがある制度ともいえます。

今後は「直接支払制度」または「受け取り代理制度」により被保険者の出産時の負担を軽減する事が可能となりました。

平成23年度の年金額は0.4%引き下げ（平成23年4月～）

平成23年度の年金額は、平成22年平均の全国消費者物価指数の対前年比変動率がマイナス0.7%だったため法律の定めに基づき、平成22年度から0.4%引き下げとなりました。

老齢基礎年金の満額 792,100円→788,900円

在職老齢年金の支給停止額が変更

在職老齢年金の支給停止基準額は賃金変動などに応じて改定されますが、平成22年の名目賃金が大幅に下落（2.0%）したため47万の基準額が46万に変更されました。（60歳から64歳は28万で変更ありません）

在職老齢年金の仕組み

現在、老齢厚生年金、老齢基礎年金は、原則65歳からの支給となっています。

以前は、60歳から支給だったことの経過措置として、被保険者の生年月日によって報酬比例部分と定額部分が60歳～64歳で段階的に支給されています。

その経過措置の年金を60歳代前半の年金（＝特別支給の老齢厚生年金）と呼んでいます。

【60歳前半の在職老齢年金】

在職中で厚生年金の被保険者の場合、給与の額により年金額が調整される場合があります。

調整の対象になる部分…

60才	61才～64才	65才
特別支給の老齢厚生年金 （報酬比例部分）	特別支給の老齢厚生年金 （報酬比例部分）	老齢厚生年金
	特別支給の老齢厚生年金 （定額部分）	老齢基礎年金
	加給年金部分	

※加給年金とは…被保険者期間が20年以上ある方が定額部分支給開始年齢に達した時に、65歳未満の配偶者等がいる場合支給されます。

加給年金額は、老齢厚生年金の一部でも支給される場合は支給され老齢厚生年金が全額停止されると、支給停止になり調整の対象にはなりません。

<計算方法>※

基本月額＝老齢厚生年金額（基金代行部分を含み加給年金を除く）÷12

1カ月分の年金

総報酬月額相当額＝その月の標準報酬月額＋その月以前の標準賞与額の総額÷12

一カ月分の給与＋賞与÷12

条件

停止額（×12カ月分）

基本月額＋総報酬月額相当額≤28万円 → 全額支給

総報酬月額≤46万円で

基本月額≤28万円 → a（総報酬月額相当額＋基本月額－28万）÷2

基本月額＞28万円 → b 総報酬月額÷2

総報酬月額＞46万円で

$$\text{基本月額} \leq 28\text{万円} \rightarrow c \text{ (46万円} + \text{基本月額} - 28\text{万円)} \div 2 \\ + (\text{総報酬月額相当額} - 46\text{万円})$$

基本月額＞28万円 → d 46万円÷2 + (総報酬月額－46万円)

(例) 総報酬月額(給与と賞与の12分の1をたしたもの) ……30万円

基本月額（年金の月額）……………10万円

総報酬月額が46万円以下で、基本月額も28万円以下なので＜a＞の式で計算

$$(30\text{万} + 10\text{万} - 28\text{万}) \div 2 = 6$$

年金は月 4 万円の支給となります。

【60歳後半の在職老齢年金】

在職中で厚生年金の被保険者の場合、給与の額により年金額が調整される場合があります。

ただし、60歳後半については、在職であっても老齢基礎年金は全額支給されるので、60歳前半に比べて調整部分の割合が、少なくなっています。

調整の対象になる部分…

特別支給の老齢厚生年金 (報酬比例部分)	老齢厚生年金
特別支給の老齢厚生年金 (定額部分)	※経過的加算 老齢基礎年金

※経過的加算とは…60歳代前半の老齢厚生年金の定額部分と65歳以降の老齢基礎年金とに差額がある場合、厚生年金に加算される部分調整の対象にはなりません。

※加給年金は調整の対象になりません。

<計算方法>

条件

停止額 (×12ヵ月分)

基本月額＋総報酬月額相当額 ≤ 46万円 → 全額支給

基本月額+総報酬月額相当額>46万円 → (基本月額+総報酬月額-46万円)÷2

(例) 上記の例では、基本月額と総報酬額との合算額が46万円以下になるので、年金は全額支給となります。

※70歳以降の方に関しても、在職であれば厚生年金の被保険者であり、保険料の負担はありませんが在職老齢年金の調整の仕組みは引き続き適用されます。

＜記事に関するお問合せ先＞*****

阿部社会保険労務士事務所

港区三田 4-7-26

TEL 03-6450-4370

HP : <http://www.biz-consultant.jp>

* * * * *

筆者のつぶやき…

先日、ある会社の会長様（71歳）の高額療養費の申請を行いました。（保険適用の医療費が高額になった場合還付される健康保険の給付）入院の時、高齢受給者証が高額療養費申請の役目をしてくれるのですが、年間の合算の適用にする場合や複数の医療機関にかかった場合などは自分で「高額療養費」の申請が必要ですので注意が必要です！！

* * * * *

* * * * *

求人部会 熱海研修報告

12月6日と7日の2日間、熱海にて研修を行い、鈴木求人部会長のほか5名が参加した。

研修の主な目的

- ・共同求人事業に関する協議を行う
- ・求人部会メンバー間の懇親を図る

●共同求人事業に関する協議内容

前回までは、埼玉新聞社主催の企業合同説明会に3回参加する内容で、参加企業も数社と少なく、会員企業のアピールができていなかった。そのため、学生に対し、IT業界に関する情報や会員企業情報を積極的に情報発信するような仕組みについて検討した。

結果としては、埼玉就職.comを利用し、埼情協専用のIT企業特集コーナーを設け、積極的に情報を発信していく方向で、今後更に詳細を詰めていくことになった。

今後の課題としては、新たなサービスの金額設定や埼情協のホームページに掲載されている会員企業の求人情報との関係もあり、掲載内容・掲載方法等を含め今後の議論の中で解決していく予定である。

●求人部会メンバー間の懇親

今回の参加者は6名と少なく、本来の主旨であるメンバー間の懇親ということではいささか課題は残ったが、参加したメンバー間では、1泊2日の研修であったため、夜遅くまで活発な意見交換および懇親が図れた。今後の部会におけるコミュニケーションもより一層高まり、有意義な部会活動になることが期待できる。



第16回 チャリティゴルフコンペを開催

場所：高麗川カントリー倶楽部 日時：平成23年10月12日(水)

高く澄み渡った秋空の下、第16回 SISIA チャリティゴルフコンペが高麗川カントリークラブで開催されました。

9組32名の参加者が集い、OUT 4組/IN 5組に分かれてのスタートとなりました。

悲喜こもごものスコアーは別として、皆さん大いにプレーを楽しみながら親睦も深めることが出来たようです。

当日は寄付金のための罰打ホールも多く設けられ、より多くの寄付金が寄せられました。

チャリティーで集まりました寄付金は埼玉県文化振興基金に寄贈致しました。

会員の皆様から賞品を寄贈頂きました事、本紙上を持ちまして厚く御礼申し上げます。

厚生労働部会では来年度もチャリティーコンペを計画致しま



◇優勝

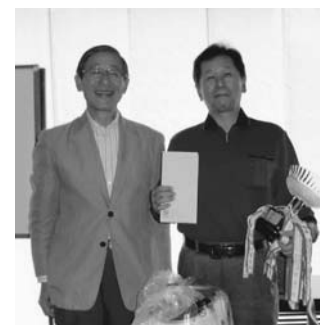
西岡 和也 氏 (株)アーベルソフト

◇準優勝

真野 利啓 氏 富士通(株)関東支社

◇第3位

矢吹 武重 氏 ミツイワ(株)



小川会長(左)と優勝した西岡さん(右)



◆はじめに

アジア・オセアニアIT産業協会 (ASOCIO) が主催する ICT Summit 2011に参加すべく、2011年11月26日から12月1日の6日間、インドネシア共和国のジャカルタ及びジョグジャカルタを訪問してまいりました。同 Summit は22カ国が参加して開催されるもので、日本からは、埼情協より小川会長・鈴木副会長等、JISA より浜口会長等総勢26名が参加しました。

開催地のインドネシアは、面積が約189万km²で日本の約5倍、人口は約2.4億人で世界第4位という東南アジアの大国です。21世紀初頭の政情不安を克服し、旺盛な民間消費と豊富な資源に支えられ、中国・インドに次ぐ高経済成長国として将来の内需にも注目が集まっており、日系企業の進出も再び活発になっています。また、インドネシアは300の民族、400の言語を抱える多民族国家であり、世界最大のイスラム国家でもあります。ちなみに日本で有名なデヴィ夫人は、インドネシア初代大統領であるスカルノ氏の第3夫人です。

個人的には、日本とは全く異なる価値観・宗教観の下でどのような生活が営まれているのか、また戦時中は日本の支配下にあった一方で当時の軍司令官であった今村均大將が現地の方に慕われていたという話もあり対日感情がどうなのか、そして将来的なビジネスアライアンスや外国人採用の対象としての可能性などに興味を抱き出発しました。

◆11月26日 (ジョグジャカルタ)

初日は成田空港を12時に出発。空路8時間の旅でまずジャカルタに渡り、国内線に乗り換えて1時間のフライトでジョグジャカルタへ。空港からは更にバスに揺られ、現地時間で22時頃 (日本との時差は-2時間)、ようやく宿泊するホテルに到着しました。到着したときには既にウェルカムレセプションの会場は閑散としており、後片付けも始まっている状況でしたので、薄暗いなか少し現地の食べ物を頂いて解散し、翌日への英気を養うため早めに就寝しました。

◆11月27日 (ジョグジャカルタ)

2日目は埼情協と JISA メンバーでジョグジャカルタ市内及び近郊の視察を行いました。インドネシアは熱帯性気候のため、1年を通じて最高気温が31℃以上であり、冬の日本から渡るとその温度差に体がついていかない印象です。ジョグジャカルタは一見田舎に見えますが人口は300万人、日本でいえば京都にあたる古い都であり、未だに王様が県知事を兼ねているとのこと。道路を走る車は9割以上が日本車で、車以上に多いバイクも日本製ばかりです。現地のガイドさんの説明では、お金持ちは車、そうでない方はバイクが一家の足とのことであり、スクーターのようなバイクに「子・父・子・母」の順で4人乗っている光景も多く見ました。

この日、もっとも印象に残ったのは、世界最大級の仏教寺院であり、仏教遺跡としても世界的な存在で世界遺産に指定されているボロブドール遺跡です。8世紀後半に建造されたもので、1460面のレリーフと504体の仏像があり、おびただしい彫刻群には、仏陀の誕生前から、悟りを開き、教えを説く過程の細かい話が表現されています。遺跡自体も大規模なものですが、周囲をジャングルに囲まれ、遠くは3000m級のムラピ山を望む景観も非常に雄大かつ美しいものでした。



ボロブドール遺跡

◆11月28日 (ジョグジャカルタ)

3日目はいよいよ ICT Summit の本番です。朝9時の ASOCIO チェアマンによる開会挨拶に始まり、各国代表によるスピーチやパネルディスカッションが18時まで続きました。同時通訳により日本語で聞くことができましたが、キーワードとして多く上がっていたのは「クラウド」



と「広域連携」、そして「SMB（中小企業）」でした。東南アジアを中心とした各国が得意分野を持ち寄って連携し、SMB 市場向けにクラウド等のサービスを展開していこうという熱い思いが伝わってきました。まだ貧富の差が激しく経済規模はさほど大きくないものの、近年の経済発展や人口増加を鑑みると、中国・インドの次は東南アジア各国が台頭してくるという見方は間違っていないかもしれません。

その夜は ASOCIO ディナーということで、ジョグジャカルタの王宮内での晩餐にご招待頂きました。非常に豪華な雰囲気でしたが、残念ながら飲食物は日本人向きではありませんでした…



ASOCIO 会場

◆11月29日（ジョグジャカルタ）

4 日目はジョグジャカルタ市内の IT 企業及び大学を視察しました。最初に訪れたのは GAMA TECHNO というガジャマダ国立大学のホールディングカンパニーです。大学・政府・企業を顧客としてトータルソリューションを展開しており、自社製 ERP（統合業務パッケージ）やスマートカードを用いたソリューションに強みがあるとのこと。説明にあたったマネージャーを含め社員の方々はみな若く、非常に前向きな印象を受けました。



次に訪問したのは STMIK AMIKOM という情報技術専門の大学です。インドネシアでベスト16に入る優秀な大学で生徒は7600人。コンピューターシステムの開発やコンサルティング、ネットワークなども教えているとのことでしたが、今回見学した所はコンピューターグラフィックスの製作現場でした。ハリウッド進出を予定しているとのこと、ここでも高い技術力と活気を感じました。



◆11月30日（ジャカルタ）

前日の視察終了後、空路ジャカルタへと戻りました。ジャカルタで驚いたのは、まず、想像以上に大都市であったことで、高層ビルが立ち並び、昼間の人口は1200万人にもなるそうです。次に驚いたのは空気が悪く河川等の水が汚いこと。現地のガイドさんは世界で汚い都市のベスト5に入ると説明していました。日本の平均寿命は男女平均で83歳ですがインドネシアは67歳だそうです。この空気と水では納得という感じですが、そのおかげで日本のような高齢化問題はないとガイドさんは明るく笑っていました。

この日は NTT データインドネシア等の視察を予定しておりましたが、私は夜中から猛烈な吐き気と腹痛に悩まれ、残念ながら終日ホテルで唸っていました。よって感想を書けません… 飲食物には気をつけていたのですが、前日の何かが当たったらしく、私のほかにも何人かの方が同一症状を発症していました。非常に苦しい思いをしましたが、出発前から「当たる」と言われていたので、これでインドネシアの旅をフルコースで味わうことができ良い思い出になりました。

◆まとめ

インドネシアの方々は礼儀正しく、日本人の我々に明るい笑顔で接してくれる方が多く、非常に親近感を感じました。平均寿命が短いこともあってか街では若者が目立ち、訪問先企業では端整な容姿で見るからに起業家という方がいる一方で、道端でゴロゴロと横になっている方や物乞いをしている方も多く、貧富の差が激しいことを実感しました。

情報化の進展という面で感じたのは、携帯電話を使っている方が非常に目立ったこと。実際、インドネシアにおける携帯電話の契約者数は約2億人に達し、既に日本を上回っているとのこと。企業の基幹業務のIT化推進だけではなく、携帯向けデジタルコンテンツやモバイル決済などの分野でも今後大幅な成長が見込まれます。商習慣の面で苦労はするでしょうが、ビジネス・アライアンスという面では欧米企業よりも組み易いのではないのでしょうか。日本のIT市場が低成長局面に入っているなか、急激な成長基調にあるこういった国の現状を肌で感じ、当社も何らかの形でグローバル化を意識せざるを得ない状況にあることを改めて考えさせられました。

最後になりますが、ご一緒させて頂いた皆様のおかげで、楽しく、充実した時間を過ごすことができましたことを、紙面を借りてお礼申し上げます。有難うございました。

私のストレス解消法

株式会社フジミック埼玉 代表取締役社長 田中 勉

庶民にも可能なヨットライフ

本年度より理事を拝命いたしました(株)フジミック埼玉の田中です。

今までの人生の中で、『埼玉』という土地とは、係わり合いが少なかったのですが、これを機に埼玉地区の情報産業の発展に寄与できるよう、頑張っていきたいと思いますので、宜しくお願い致します。

さて、私のストレス解消法ですが、私は鎌倉在住ということもあり（と言うより趣味のために35年前に横浜から転居しました）、マリンスポーツが好きで、中でも生涯の趣味としているのが『ヨット』です。

日本では、まだまだマイナーな趣味のせいか、この話題を持ち出すと、大部分の方は、「随分、お金持ちですね」という反応をされます。

確かに、一昔前のヨットオーナーは、富豪家が多く、米国開拓史に出てくる、鉄道王バンダービルトは、「ヨットにいくら金が掛かりますかなんて質問する奴にヨットなんか一生持てないよ」と豪語したそうです。

しかし、我が家の家系は、二代続く平均的サラリーマンで、収入も極めて平均的ですので、費用は大きな問題です。

以前からディンギーと呼ばれる2人乗りの小型ヨットで遊んでいた私は、何とか自分のヨットを持ちたいと願い、他のヨットオーナーに、費用に関する質問をぶつけました。

答えは意外と簡単でした。

つまり、私が保有しているヨットは、私の個人的な所有物ではなく、友人達8名との共同所有物なので、平均的収入の私でも、十分に保持できるというわけです。

ヨット自体の値段（つまり初期費用）は、国産自動車程度から豪邸クラスのものまでピンキリですから、自分の経済レベルに合ったものを選択できます。

また、大事に扱ってやれば、20年以上の耐久性がありますので、サラリーマンでも十分に楽しむことができます。

維持費も、月一回のゴルフ代よりは、はるかに安いと思います。（因みに、私は経済的、及び時間的理由でゴルフは嗜むことが出来ませんので、悪しからず）

むしろ難しいことは、その8名の仲間を集めること

と、その組織を分裂させないで、円満に運営していくことです。

さて、実際のヨットライフですが、ほぼ毎週土曜日になると、マリーナへ顔を出しています。



自然が相手のスポーツなので、雨や嵐の日もあり、いつも気持ち良く帆走できるわけではありません。

そして、何よりも、いつもベストコンディションを維持する為に、日頃のメンテナンスは欠かせません。

先程、ヨットにはそれ程お金は掛からないと申し上げましたが、ヨットは、自動車のように大量生産されているわけでは有りませんので、使用する部品の一点一点は極めて高額です。

また、自動車のように至れり尽くせりのアクセサリは無く、基本的な部品以外は、殆ど既製品を改造するか手作りとなります。

例えて言えば、性質の悪い愛人のように高慢で欲張り、常にあれが欲しいこれが無いと厭だと我儘を言い、無視するとすぐに拗ねてしまいますので、常に小銭と時間を割いて機嫌をとってやる必要があります。

更に一番の問題は、この愛人にあまり小銭と時間を割いていると、今度は本妻の機嫌を損ねてしまうということです。

この辺りの微妙なコントロールは、ヨットの操舵以上の技術を要しますが、極めて大切なポイントですので、常に心掛けています。

しかし、天気の良い日に穏やかな海を音も無く帆走するヨットから見る、雪化粧した富士山や夏の日の夕日はとても美しく、筆舌に尽くし難いものがあります。

この一瞬の静寂に包まれた景色を満喫すると、それまでの苦労が報われ、またまた性懲りも無く、小銭と時間を費やしてしまう、割の悪いストレス解消法のご紹介でした。



● 行事報告 (平成23年10月～12月) ●

	日付	行 事 名	担当部会等	員数	場所・時間
10月	1日	情報化月間記念式典	事務局	常務理事	東商ホール 17:00～18:00
	5日	第126回理事・監事会	事務局	15名	大宮サンパレス 13:30～
		学校と企業との就職交流会	求人部会	学校側20名 企業側34名	大宮サンパレス 15:00～
	6日	日本ソフトウェア協会 共同展示会	ビジネス部会	8名	鉄鋼会館 14:00～19:00
	7日	首都圏情報団体協議会事務局会議	事務局	内田次長	山梨県笛吹市 (株)プリリアント 16:00～18:00
	11日	広報部会	広報部会	8名	事務局 15:50～
	12日	第16回埼情協チャリティゴルフ大会	厚生労働部会	35名	高麗川カントリー倶楽部 7:45集合
	13日	IT 研修 (～14日) 「プログラム開発におけるレビュー ・テスト技術」	研修教育部会	19名	JACK ビル14階 9:30～17:00
	15日	システム技術部会	システム技術部会	10名	AGS(株) 会議室 16:00～
	17日	HP コンテスト部会	HP コンテスト部会	7名	事務局 15:00～17:00
	18日	IT 研修「Excel マクロによる日常 業務の効率化」	研修教育部会	15名	JACK ビル14階 9:30～17:00
	25日	臨時総会「公益社団法人について」	事務局	30名	大宮ソニックシティ905号室 10:30～12:00
		IT 研修「ExcelVBA による業務の 自動化」	研修教育部会	8名	JACK ビル14階 9:30～17:00
	26日	ビジネス部会	ビジネス部会	10名	事務局 15:00～17:00
	28日	IT 研修「プロジェクト成功につな がる基本行動トレーニング」	研修教育部会	15名	JACK ビル14階 9:30～17:00
11月	1日	第12回メトロエリア・グリーン会	事務局	8名	多摩カントリー 8:30集合
		HP コンテスト部会	HP コンテスト部会	7名	事務局 14:30～17:00
	10日～12日	ANIA 全国大会	事務局	16名	京都
	11日	IT 研修 (～12日) 「データベース設計」	研修教育部会	7名	JACK ビル14階 9:15～17:00
	15日	求人部会	求人部会	8名	エレクス(株) 会議室 15:30～
	16日	ビジネス部会 アンケート依頼作業	ビジネス部会	5名	事務局 15:00～17:00
	17日	HP コンテスト最終審査会	HP コンテスト部会	理事15名 来賓12名 部員7名	大宮ソニックシティ603号室 14:00～
	18日	システム技術部会 合宿(～19日)	システム技術部会	8名	秩父
	19日・20日	埼玉県工業高校 HP コンテスト 審査会	HP コンテスト部会	松島 部会長	さいたま文学館 (桶川) 19日:午前中、20日:午後
	21日	埼玉日経懇話会	事務局		ロイヤルパインズ 16:30～
	24日	仕事出合いフェア	事務局	内田次長	With You さいたまセミナー室 12:00～
	26日	ASOCIO 2011インドネシア大会 (～12/2)	事務局	9名	インドネシア
		総務省関東総合通信局 関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会主催 「わがまち CM コンテスト」	HP コンテスト部会	松島 部会長	小山市立生涯学習センター 13:30～17:00
12月	6日～7日	求人部会 合宿	求人部会	6名	熱海
	7日	企業と大学3年生との懇談会	事務局	内田次長 学生50名	埼玉工業大学 15:00～
	9日	ビジネス部会	ビジネス部会	10名	事務局 15:00～
	15日	システム技術部会	システム技術部会	10名	AGS(株) 会議室 16:00～
	19日	HP コンテスト部会	HP コンテスト部会	9名	事務局 15:00～

会 員 企 業 動 向 <代表者変更・社名変更>

富士通株式会社 関東支社

支社長 (旧) 大木 淳 氏
(新) 中野 圭 氏

協会担当者

(旧) ソリューション営業部長 水谷 修造 氏
(新) 第二公共営業部長 真野 利啓 氏

株式会社富士通エフサス 関越支社

支社長 (旧) 菅原 享 氏
(新) 谷地舘 正 氏

株式会社富士通マーケティング 関越支社

(旧) 株式会社富士通マーケティング 関東支社
(新) 株式会社富士通マーケティング 関越支社
支社長 (旧) 菊池 邦彦 氏
(新) 大木 淳 氏

編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しく願いいたします。

2011年は、今年の漢字「絆」、「災」、「震」が象徴するように、震災関連の漢字でした。震災後、長引く原発問題の影響で、日本は大混乱に陥りましたが、サプライチェーンの正常化にともない着実に持ち直しており、改善が進んでいることが少し感じられるようになりました。しかし、国内では社会保障費、所得税率や消費税率引き上げなど国民負担増の動き、欧州での債務危機の影響による景気停滞の長期化、米国での雇用改善の遅れ、中国の成長ペースの鈍化など、景気を楽観視することは難しい状況に

あります。

2012年は、西暦（グレゴリオ暦）による日曜日から始まる閏年で、原則28年周期で回ってきます。激動の年となるに違いありませんが、確実に訪れるはずのチャンスに目を向け前向きに元気に、龍が天に昇るが如く昇龍の年にしましょう。サイプレスも協会員の皆様の繁栄・発展につながる良質な情報を提供させていただきます。

最後に私の抱負になりますが、「最初からあきらめない、最初から無理と思わない」をモットーにやりたいことがあったらどんどんアピールしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。(深澤)

<IT なんでも相談室>

経済振興・経営革新に IT 利活用が大きな課題となっております。

政府・県も様々な IT 関連施策を計画しておりますが、当協会でも中小企業の皆様の IT に関する悩み、IT 投資など様々な問題についてご相談に応じます。

場所：〒331-0823 さいたま市北区日進町2丁目1864-10
社団法人埼玉県情報サービス産業協会 事務局内

受付相談 専用電話 048(660)1788



SAI-PRESS 編集委員

今 井 明 (夢科情報)
岩 寄 正 (協会常務理事、事務局長)
小 川 智 之 (関東図書)
古 山 義 信 (ボルボ・IT・ジャパン)
平 野 友 紀 (メディア工房)

編集長 深 澤 陽 平 (夢科情報)
松 島 勲 (デマンド&コミュニケーションズ)
吉 野 曠 男 (AGS ビジネスコンピューター)
矢 吹 武 重 (ミツイフ)
山 崎 喜久男 (フジコミュニケーション)